

CNSニュースレター

～千葉の地から、千葉のチカラ～

2018 春
vol. 19



春爛漫！満開の桜が、咲き誇りました。—千葉の郷土料理が集まる揚げ重パーティーにて。（千葉市）

も く じ

□一灯照隅	…2	□ろくすけ日和	…10
□指定管理の現場から	…3	「ろくすけの庭はごちそうがいっぱい??」	
□12～2月の現場レポート	…4	□千葉シニア自然大学	
・主催事業		「自然の脅威とは」	
・ネットワーク・受託事業		□みんなのおおきな食卓	…11
・指定管理施設の主催事業		松田料理長のおすすめ	
□こんなことにチャレンジしています！	…7	□会員校・指定管理施設紹介	…12
□4月～6月 CNS ネットワークイベント情報	…8	□スタッフのつぶやき	

例年になく寒い日々が続いた冬が去り、季節は心身ともに軽やかとなるに春を迎えています。

大自然の営みの前には、人間の力など全く無に等しいものだとは常々感じていますが、訪れる季節の移り変わりの度に、自然の不思議をあらためて考えています。

千葉自然学校も新年度を迎え、男女3名の新人が入って来ました。

北海道の学校の卒業生、東北の出身者そして千葉県生まれと三者三様の経歴ですが、自然学校の仕事がしたいとの思いを持った若者が、夢を叶えるために元気に過ごしてくれる事を願っています。

千葉自然学校は、この5月で満15歳となり、これから二十歳の成人式に向かって歩んで行きますが、産声をあげた時に掲げた「千葉自然学校の3つの使命」を改めて再確認したところです。

その一は、体験活動を通じて、だれもが人生を豊かに生き、支え合う力を育む

その二は、体験活動を通じて、地域の資源を保全・活用し、次代に引き継ぐ

その三は、体験活動を通じて、ネットワークを充実し、地域の活性化をめざす

です。

今年度の自然学校の活動の柱は、幼児からシニアまでのプログラム事業、国・公共団体・企業からの事業受託、県市の社会教育施設の運営管理などとなりますが、このような活動を通して組織としての使命を図って行きたいと考えています。

新たな動きとして、14年近く賃借して来た「古民家ろくすけ」が、昨年に、家主さんから建物のみの移管を受け、これを契機に農泊が可能となる改修と必要な許可を取得し、都市と農村の交流施設としてこれまで以上に活用をして行くこととなりました。

里山の原風景が色濃く残るこの地に足を運んで頂き、田舎の暮らし体験を通して自然に親しんでいただければと考えています。

皆様のご利用をお待ちしています。



「一灯照隅」この後に「万灯照国」と続きます。これは、1つの灯りは隅しか照らせないが、万の灯りは国全体を照らすことができる。転じて、一人一人が自分の役割を懸命に果たすことが、組織全体にとって最も貴重であるという意味の最澄の言葉です。

指定管理の現場から

千葉自然学校は、現在県内にある3ヶ所の施設を指定管理者として千葉県、南房総市からそれぞれ委託を受け、管理・運営を行っています。
このコーナーでは、それぞれの施設での取り組みや想いを皆様にお届けしていきます。

南房総市大房岬自然の家 所長 神保清司

本格的な春の到来を迎えた大房（たいぶさ）岬では、桜の花も、その見頃がソメイヨシノから八重桜へと移ります。足元に目を向けると草花も勢よく伸び始め、茶色かった岬の風景が緑色に姿を変えました。海の様子も穏やかな風の日が多くなり、水温はまだ低いのですが、晴れた日の潮溜まりでは、ハゼやヤドカリの姿が見受けられるようになりました。このような穏やかな春を迎えるまで、冬の間の大房岬では、あることを耐え忍ばなくてはなりません。

それは、「オオニシ」と呼ばれる猛烈な西風です。通常7～8mほどの風が吹き、強いときには12mを超えることもあるのです。

南房総の風物詩でもあり悩みのタネにもなる「オオニシ」ですが、実は、このオオニシが吹くことで海が荒れて海水がかきまぜられ海の中が活性化し、結果として多様な生物の生息環境が整えられるという効果もあるようです。

人と自然の関係性もまた多様ということでしょうか。徒然なるままに。



千葉県立君津亀山少年自然の家 所長 庄司達哉

「人は育てる？育つもの？」

私たちは教育機関で働いています。「教育」＝「人を教え育てること」を目的とした施設です。施設利用者の子どもに対して、また一緒に働く職員に対しても、人の育成という視点が必要不可欠です。

ただ、最近「育てる」という言葉に違和感を覚えることがあります。私は基本的には「人は育てる」ものではなく「育つもの」だと思っています。いくら育てようとする人が頑張ったとしても、最終的に人の成長は本人次第からです。



本人の意思や環境などを考慮しないまま育てようとした場合、本人に伝わるのは育てようとする側の傲慢さやお節介りではないでしょうか？特にこうした関係性が日本の職場内には多いように感じます。

だからといって、放置するわけではありません。育てる側が出来るのは、環境を整えたり、成長の障害になっているものを取り除いたり、ほんの少しのお手伝いだと思います。育てる側と育つ側と分けるのではなく、「お互いが成長できる（共育）」そんな関係性を多くの方と作っていきたくて考えています。

千葉県立大房岬自然公園 公園長 山口亮介

以前にもこのスペースに書かせていただいたのですが、大房岬自然公園ではメリケントキンソウという外来種の繁殖が驚異的です。冬の時期に芽吹くのですが、とうとう一斉に芽吹き始めました。昨年の駆除作業に四苦八苦していた職員は少々げんなりしながら、また駆除の計画を立て始めています。

そもそも外来種とは、その名の通り国外から入ってきた生物の事を指します。膨大な数の生物が国外から入って来ますが、そのうちこの日本の気候や土壌に適応するのは約1割だそうです。さらに、もともと日本にいる生物に悪影響を及ぼすのはそのうちの更に1割。つまり、全体のたった1%の生物に頭を悩まされていることになります。

外来種ももとはと言えば好きで入ってきたわけではなく、人間の活動の影響で入ってきてしまったもの。それでも力強く生きている様子を見ると、生命力の強さに驚かされると共に、人間と生物の関わりを考えさせられます。



⑫①②月の現場レポート「主催事業」

日帰り・シニア 房総を歩こう!

房総の古道を歩く!④

12/2(土) シニア

◆奥畑/三郡山分岐/お茶立場/高宕自然動物園



冬晴れの絶好のハイキング日和のなかスタート! 今回の古道は頼朝伝説残るお茶立場を巡って来ました。

奥畑から関東ふれあいの道からスタート。八良塚分岐までは登りもありますが順調に進んで行きます。次の三郡山分岐から高宕山方面との尾根を分けアップダウンの道を慎重に歩きます。急降下する場面も出てくるドキドキな道です。平らな道になるとお茶立場はもうすぐです。写真にあるヤカンがお茶立場です。頼朝がお茶を立てさせたとされる場所に川崎さんが残した古いヤカンがあります。この先に露岩が現れます。白いテラスと言われる場所は日当たりも眺めも最高です。まさに絶好のお弁当ポイントです。お腹も満たされたところでゴールの自然動物園に向けて出発。黄葉の樹木を楽しみながら下って行くと生活の道に会い古道歩きも終わりをむかえました。

緊張とリラックスの塩梅が相まってみなさん楽しんで頂けたようです。

週末・子ども

釣りきち探検隊④

高滝湖でワカサギ釣り

12/9(土) 日帰り 市原市 高滝湖 小学生

◆ワカサギ釣り/釣れたら素揚げでいただきます



当日は、雲一つない快晴で青空と湖の青が気持ちの良い釣り日和の中、予定通り釣りを実施することができました。

ワカサギ釣りといえば氷上穴釣りを思い浮かべると思いますが、比較的寒くない千葉でも岸から釣ることができる環境を活かした企画となりました。

今回は、釣りが初めての子どもがほとんどで、釣りの基本を知ることからスタートしました。

釣りの竿の持ち方・投げ方から、餌の付け方や釣るときのコツまで等、釣りのことを教えてもらう時の子どもは真剣そのものです。

いざ、餌付けからチャレンジ。子どもは飲み込みも早く、直ぐに自分の手で餌を付け、竿を上手に使います。

中々釣れないという時もありましたが、みんな終わりの時間いっぱいまで楽しんでいました。

日帰りでは物足りないという子がほとんどでしたので、今回の初めての釣りをきっかけにこれからも積極的に釣りに挑戦し、自然への興味を深めてほしいと思います。

週末・子ども

イベントシリーズ

森のクリスマスキャンプ

12/23(土)~24(日) 君津市 君津亀山少年自然 小学生

◆ダッチオーブン鶏のコラ煮/パーティー/クラフト



君津亀山少年自然の家に沢山の小さなサンタたちが集いました。

年中~小学6年生のお友達みんなで祝うクリスマスはどこよりもにぎやかで楽しいクリスマスとなりました。

パーティー料理もプレゼントも自分で作ることの楽しさ、みんなで一つのものを作り上げることの楽しさを感じてくれたと思います。

また、終わりの会で、子どもに聞いてみました。「おうちのひとと離れて、一人でお泊りするのが初めてだった子はどのくらいいるかな?」6~7人の子が手を挙げてくれました。

この2日間で、ダッチオーブンで鶏肉のコラ煮、石窯焼きチョコバナナパイ、夜のサンタ大作戦、キャンドルづくり、芝すべりなどいろいろな活動を行いました。

ただ、それよりもっと大事なことは、保護者の方と離れて1泊2日を過ごすという生活体験だと感じています。

普段とは違う環境・お友達の中で、戸惑うことや緊張すること、さみしくなることもあったと思いますが、帰っていくみんなの背中には少しの自信が見られました。

週末・こども

イベントシリーズ

スノーあそベンチャー

12/23(土)~24(日) 新潟県 国立妙高青年自然の家 小学生

◆雪あそび/かまくら作り/雪合戦/そりすべり/雪だるまづくり



日帰り・シニア

房総を歩こう!

房総の古道を歩く!⑥

1/20(土) シニア

◆植畑/三百坂/芹分岐/九十九谷周辺/九十九谷展望公園



週末・こども

パティシエキッズキャンプ③

お菓子の家

2/3(土)~4(日) 君津市 君津亀山少年自然の家 小学生

◆シリアルチョコづくり/お菓子の家づくり/フラネタリウム



日帰り・シニア

房総を古道を歩く!

房総の古道を巡る⑥

2/24(土) シニア

◆豊英湖/清和県民の森/尾崎/請雨山/大作



天候にも恵まれ、予定通りプログラムを実施することができました。千葉県では中々みることのできない、一面の銀世界にふさわのパウダースノーがわたしたちを出迎えてくれました。

長いバス移動を経て、会場の国立妙高自然の家に到着したら、早速みんなで雪遊びをしました。雪玉を作って雪合戦をしたり、雪におもいきり飛び込んだり、自分たちのやりたいことを思いっきり楽しんでいました。自然の中に入った時の子どもの遊びの発想力のすごさに、大人はいつも驚かされます。

1日目は、子どもでやりたい遊びを考えて、大人と子どもで本気の雪合戦をしました。3日間の雪あそびはあっという間に過ぎてしまいます。2泊3日のキャンプを通して、体を動かしたところと雪とふれあい、お友達と楽しんだ子どもの顔は輝いていました。

小雨降る中植畑地区をスタート!昨日の晴れの天気予報からがらっと変わり雨模様でしたが、バスを降りるやいなや雨合羽に身を包むみなさん。動じませんね流石です。

石射太郎方面に進み、身代尊の祠を見学。三百坂に入る頃には雨も止みだし順調に進んで行きます。芹の古道方面に尾根を分けトラバースしながら草紅葉のなかを下ります。見晴らしのいい尾根よりこれから登る鹿野山が霧の中に浮かんでいます。広葉樹の明るい道は、新緑の頃にまた来たいと思わせてくれる素晴らしい山道です。山中に残る田んぼ跡に踏み込み小川を渡り、ここから一気にゴールの九十九谷展望公園めがけ急登が始まります。杉の植林の道なので暗く見通しも利きません。ゴルフ場の脇道に出ればもうゴールは目と鼻の先。九十九谷展望公園からの景色はガスに覆われていましたが無事到着。みなさんお疲れ様でした。

開催前に降雪があり、天気はどうかと心配していましたが、プログラムに支障なく無事活動することができました。空からのプレゼントで思いがけず雪遊びもすることができました。1泊2日、君津亀山少年自然の家にてのびのびと元気に過ごし、今回初めて親元を離れて宿泊するお子様も多かったと思います。たった2日間ですが、子どもにとっては大きな経験となり、自信に繋がっていったことでしょう。

1日目にはバレンタイン目前ということで、シリアルチョコづくりに挑戦しました。シンプルながらもおいしくつくることができ、大満足の結果となりました。2日目はいよいよメインイベントのお菓子の家づくりをしました。クッキーが崩れてしまったり、なかなか苦戦しましたが、最後は無事お菓子の家を完成させることができました。

冬晴れの絶好のハイキング日和のなかスタート!今回はいよいよ鹿野山山脈ファイナルステージ。5月から歩き出した鹿野山から郡界尾根へとつながる尾根を南下して行くコースです。

清和・奥畑よりつり橋を渡ってスタートです。前半はロマン森【グリーンアドベンチャーロード】から清和県民の森ハイキングコースを巡りました。残念ながら富士山は霞の中でした。途中国道に出お昼の時間をとります。風がありましたが、場所を選べばほかほか陽気の中でのお弁当タイムです。いよいよ本番の古道を尾崎から請雨山まで歩きます。前半の整備されたコースとは違い人知れず歩かれていないコースは足場も悪いところが出てきます。慎重に通過し請雨山まであと少しのところまで長狭平野の展望が広がり出します。雨乞いが執り行われる山頂手間には愛宕神社の鳥居があります。鳥居前広場からの展望は素晴らしい一言です。正面には県内一高い愛宕山を望むポイントです。コーヒータ임でまったりした後、大作にむけ下山を始めました。

「ネットワーク・受託事業」



ネットワーク事業：南房総 「インバウンド研修会」

南房総体験活動ネットワーク協議会は、館山市、鴨川市、南房総市、鋸南町の3市1町の行政、体験事業者などから構成される広域の協議会です。千葉自然学校が事務局を務めています。

今回は、本協議会主催のインバウンド（訪日旅行）受入に関する研修会を実施しました。南房総市、鴨川市のインバウンド取り組み事例を発表いただき、千葉県観光物産協会の石田様よりご講話を頂きました。

南房総エリアは、まだまだ海外の方には認知されていない実情もわかってきました。

そして、海外の方の中でもどのような国やどのような旅行形態の人をターゲットにしていくのか、誰がどのように受入の旗を振っていくのかを明確にすることが大切だというお話しをしていただきました。東京オリンピックまであと2年。やらなければいけないことはたくさんありそうです。

（文：白井健／ネギ）



指導者派遣事業

「ふくるる森のようちえん」



今年度から依頼を受け活動サポートしている『ふくるる森のようちえん』。主催は、銀座に事務所を構えるNPO法人森の学校です。25年前から「都会に暮らしていても子どもには自然の中でのびのびと育てほしい」と環境教育活動を展開しています。

『ふくるる森のようちえん』は、江東区にある夢の島公園が舞台。「いのちのつながり」をテーマに植物や生き物に焦点を当て、その知恵に触れる活動を行っています。活動中、子どもは目を輝かせながらルーペ片手に走り回っています。土の上を歩かないのが日常の中、広い原っぱやアップダウンや木の根が張った土の上を歩くこと・感性を開くこと自体が非日常の都心部の子どもにとって、この機会は本来子どもが持つ心身の能力の振り子を戻す大事な場になっています。

都心の地域課題解決の一つとして、「子どもの自然体験の場」をこれからも見守りつつサポートできたらと思っています。

（文：谷慶子／けろっぴ）



平成29年度 千葉県びわ・かんきつ園交流促進事業

「南房総援農モニターツアー」

私たちの暮らしや食を支えている生産者（農家さん）は、後継者や管理作業の人手不足に悩まされています。“援農”が体験プログラム化され、人手不足の軽減につながるのだろうか？今回、県の調査事業で南房総にて援農モニターツアーを開催しました。

行先は、野宮農園（千倉町）さんとほづみ・びわランドさん（富浦町）の2か所。野宮農園では、ミカンの木を剪定した枝をかき集め、広場へ運び出して燃やす作業。ほづみびわランドでは、化粧箱の組立作業のお手伝いをしてきました。後々で迷惑にならないようにと、農家さんと何度も確認しながら慎重に進めていきました。

モニターの皆さん、作業終了時には、程よい疲労感と達成感が見られました。そして、「自分で足を運んだからこそできる体験だった。」「農家さんと触れ合い、工夫や苦労話が聞けたことが収穫だった。」等、感想が聞けました。同時に、受入側である農家さんからの貴重な意見も伺い、具体的な課題も見えたモニターツアーとなりました。

（文：橋口和美／たこはち）



■こんな取り組みもしています■

ろくすけ味噌づくり

ろくすけでは、大豆から育てて味噌を作っています。畑を耕し、大豆を育てて、収穫して選別し…大きな鍋で茹でて、機械で潰して麹と塩をまぜ、食べられるのは半年後。一度作ったらこの味噌しか食べられなくなったという方が毎年リピーターとなって味噌を作っています。もちろん販売もありますので、食べてみたい！という方はぜひ千葉自然学校へお問い合わせください♪

「指定管理施設の主催事業」

南房総市大房岬自然の家

「第一回南房総ロングトレイル」

第一回目の南房総ロングトレイルは、館山市にある安房国一の宮「安房神社」をスタートします。安房は旧国名ですが、その中で最も社格の高い神社を一の宮と呼びます。

荘厳な雰囲気のある境内を抜け一路根本峠へ。イノシシの痕跡や、かつて馬の水飲み場であったであろう痕跡などを見ながら平坦な古道を進みます。

最後に一登り。体が温まる頃には根本峠に到着です。眼下に南房総市大房町の街並みと、広大な太平洋を見渡せるビューポイントです。

峠から街中を抜け、白い砂浜の根本海岸でお昼休憩です。自然の家食堂の特製お弁当でおなか一杯に。



ここからは海岸歩き。途中漂着物を拾ってみたり、砂丘のような砂浜を歩いてみたり。ゆったり歩きながらあっという間に千葉県最南端野島崎へ到着です。

魅力あるコースをつなぎながら南房総の自然・歴史を楽しむ南房総ロングトレイル。是非一度ご参加ください。

(文：白井健／ネギ)

千葉県立大房岬自然公園

「サンタの大運動会」

12月16日(土)、大房岬自然公園の主催事業、「サンタの大運動会」を開催しました。サンタの服装をした大人と子どもが33人(トナカイが一匹)も勢揃い。海が見える南芝生園地を舞台にして、「巨大ボーリング」、「そりレース」、「ずんずんキャタピラー」などの競技を年代別に行いました。

各競技とも、小さい子どもは大はしゃぎ。大人はちびっこサンタが頑張る様子をカメラに撮るべく大奮闘。大盛り上がり的一天でした。

最後にみんなでゲームをしていると、「メリークリスマス!」の声とともに本物(?)のサンタさんがプレゼントを持って登場。

参加者の盛り上がりも最高潮に達しました。

大人も子どもも思い出に残るクリスマスになったようです。

(文：山口亮介／こめ)



千葉県立君津亀山少年自然の家

「一日だけの、森の童話館」

2月18日(日)君津市教育委員会との共催による「一日だけの、森の童話館」を実施しました。

一年に一度この日だけきみかめが素敵なおはなしの世界に変わります。読み聞かせや体験ブースなど地域団体の皆様のご協力のもと、当日は349名のお客様にお越しいただきました。

アスレチックの森ではブランコやターザン、ハンモックなどでゆったりと、そして豪快に楽しんでいる様子でした。

たき火コーナーではマシュマロを自分たちで焼いたり、焼き芋を焼いたりなど普段なかなか出来ない体験でとても楽しそうな姿が見られました。

森の博物館でオリジナルのクラフト工作や展示のパネルを見ながらきのこについて学んだり、子どもも大人も笑顔あふれる一日となりました。



来年も「一日だけの、森の童話館」を開催しますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

(文：工藤圭／しんちゃん)

こんなことにチャレンジしています!

「上総掘りに挑戦!」

千葉県立君津亀山少年自然の家では昨年より「上総掘り」に挑戦しています。ご存知の方も多いと思いますが、上総掘りは日本を代表する掘り抜き井戸工法です。君津市の小糸川流域や小櫃川流域で明治時代に完成され、日本中にその技術が伝わっていきました。今では水不足で困っている東南アジアや南アフリカなどの国々で活用されています。2~3人の職人でエンジンなどの動力を使わずに150~500mの井戸を掘削できることを特徴としています。

長年久留里にて上総掘りの体験活動を実施されてきた「NPOかずさ」から、「スタッフの高齢化によって続けていくことが難しい」「上総掘りの体験を引き継いでくれないか」という相談があったことが今回のきっかけです。NPOかずさから上総掘りの足場の板や竹、道具などを無償でいただき、昨年7月に足場を設置しました。足場の設置からおおよそ1ヶ月毎に作業を重ね、11月には掘りはじめることが出来ました。私たち職員はまったくの素人なので、作業の度にNPOかずさのスタッフにご指導いただきながら進めてきました。

正直な感想は「思ったよりも大変!」です。井戸を掘削する時には、掘り鉄管という7mの鉄の棒を使いますが、これが「重い...」。また、掘り鉄管には竹のヒゴをつないで使用するのですが、ヒゴづくりには職人技とも言えるような技術が随所で見られます。

現在の日本においては簡単・便利とは言えない技術ですが、先人たちが水を得るために試行錯誤をしながら完成させたという上総の歴史、またNPOかずさが長年実施されてきた思いや情熱を引き継いでいきたいと思っています。当施設に来られる方は是非「上総掘り」を体験してみてください。

(文：庄司達哉／しゅれっく)



CNS ネットワーク ④⑤⑥月のイベント情報



4月

チバニアンと房総ふれあいの道『湖水と山里のみち』ハイク

約 77 万年前の「地球磁場逆転期の地層」チバニアンの見学と、春の「房総ふれあいの道『湖水と山里のみち』」のハイキング。約 9km。

【開催日】4月18日（水）
【対 象】どなたでも（中学生以下のお子様は保護者同伴）
【参加費】1,400 円
【会 場】内浦山県民の森（鴨川市）
【連絡先】内浦山県民の森
TEL：04-7095-2821 FAX：04-7095-2822

ピザ焼き体験

生地作りから焼きまでを体験します。レンガの窯で焼くアツアツのピザは格別です。

【開催日】4月21日（土）
【対 象】どなたでも（小学生以下のお子様は保護者同伴）
【参加費】1,600 円
【会 場】館山野鳥の森（館山市）
【連絡先】館山野鳥の森
TEL：0470-28-0166 FAX：0470-28-0187

春の山菜摘み体験

かずさの森には山菜が沢山。ヤマザクラ咲き乱れる中、キノコとりも合わせて満喫しませんか？ワラビ、ゼンマイ、タラ、コゴミなどを摘み、普段知らない山菜料理も堪能ください。

【開催日】4月21日（土）～22日（日）
【参加費】大人 10,000 円、子供 8,000 円
【会 場】森林塾かずさの森（君津市）
【連絡先】森林塾かずさの森
TEL & FAX：0439-35-2114
E-mail：info-kfs@kazusanomori.com

親子プログラム①親子 de カヌートリップ

親子で力を合わせて広大な湖へ冒険だ！初めてカヌーに乗る方も安心のカヌーレクチャー付き！水面すれすれを風をきって進む気持ちよさは体験しないとわからない！日帰りで気楽に参加いただけます！

【開催日】①4月28日（土）②4月29日（日）
【対 象】親子 ※お子さま…小学生以上
【参加費】CNS クラブ会員 7,500 円、一般 9,000 円
【会 場】亀山湖（君津市）
【連絡先】ハロートラベル千葉自然学校予約センター
TEL：043-224-1400
E-mail：cns-camp@aroma.ocn.ne.jp

チチトコ野外塾：春の海。釣って食べよう

親子で体験するアウトドアプログラム。過ごしやすい陽気の春の海。竿・糸・針・おもりの基本的な仕掛けで磯に棲む魚を釣ります。釣った魚をさばいて、料理して、食べよう！

【開催日】4月29日（土）
【対 象】小・中学生の親子 及びその家族
【参加費】親子 2 名：会員 6,500 円、一般 7,500 円
1 人追加：会員 2,500 円、一般 3,000 円
【会 場】ELFIN 鋸南ベースおよび周辺地域（鋸南町）
【連絡先】ELFIN 体験共育くらぶ
TEL：0470-55-8322 E-mail：toi-awase@elfin-ee.com



5月

初夏の野鳥観察会

日本野鳥の会会員とともに、野鳥の森園内や周辺の野鳥の観察会を行います。

【開催日】5月12日（土）
【対 象】どなたでも（小学生以下のお子様は保護者同伴）
【参加費】600 円
【会 場】館山野鳥の森（館山市）
【連絡先】館山野鳥の森
TEL：0470-28-0166 FAX：0470-28-0187

～春の星空観察会～ スターキャンプ鴨川

月・木星・春の星座の観察をします。マイ望遠鏡持参可。君津天文同好会との共催イベント。こども対象の望遠鏡操作体験会もあります。

【開催日】5月19日（土）19：00～20：30
【対 象】どなたでも（中学生以下のお子様は保護者同伴）
【参加費】100 円
【会 場】内浦山県民の森（鴨川市）
【連絡先】内浦山県民の森
TEL：04-7095-2821 FAX：04-7095-2822

ハーブ、薬草風呂体験

深い緑の中、日頃のストレスから解放されて、かずさの森の薬草、ハーブを思う存分使ったの香浴体験はいかがでしょう？体に優しい食事、ソフトな運動（ニワトリの餌やり、犬の散歩、薪割りなど）。塾長と「自然な暮らし方」について、対話があります。

【開催日】5月19日（土）～20日（日）
【参加費】大人 9,000 円、子供 7,000 円
【会 場】森林塾かずさの森（君津市）
【連絡先】森林塾かずさの森
TEL & FAX：0439-35-2114
E-mail：info-kfs@kazusanomori.com

新緑の森の自然観察会

オオルリやサンコウチョウなどの夏鳥をはじめ、野鳥の囀りが賑やかな季節。コケリンドウやアケビなど季節の花々も咲く森歩きを楽しめます。林道歩き約 4km。

【開催日】5月20日（日）
【対 象】どなたでも（中学生以下のお子様は保護者同伴）
【参加費】500 円（森の宿「せせらぎ」宿泊の方参加費半額）
【会 場】内浦山県民の森（鴨川市）
【連絡先】内浦山県民の森
TEL：04-7095-2821 FAX：04-7095-2822

手打ちうどん作り

簡単！家庭でもできる手打ちうどん作りを体験します。竹を削って箸も作ります。

【開催日】5月23日（水）
【対 象】どなたでも（小学生以下のお子様は保護者同伴）
【参加費】1,000 円
【会 場】館山野鳥の森（館山市）
【連絡先】館山野鳥の森
TEL：0470-28-0166 FAX：0470-28-0187



6月

手作り鉢とガーデニング教室

木材を使った手作りの鉢で、オシャレな寄せ植えを作しましょう。夏の草花を使った寄せ植え教室も行います。

【開催日】6月9日（土）

【対象】どなたでも（小学生以下のお子様は保護者同伴）

【参加費】1,600円

【会場】館山野鳥の森（館山市）

【連絡先】館山野鳥の森

TEL：0470-28-0166 FAX：0470-28-0187

野性ホタル、モリアオガエル鑑賞

かずさの森の水場では、元気な生き物たちとともにたくさんホタルが見られます。ゲンジボタル、ヘイケボタルが見られます。大池には、たくさんモリアオガエル（天然記念物）が産卵にやってきます。船に乗って普段見ることができないカエルの産卵も観察します。陸生のクロマダホタルも見られます。

【開催日】6月16日（土）～17日（日）

【参加費】大人 9,000円、子供 7,000円

【連絡先】森林塾かずさの森

TEL & FAX：0439-35-2114

E-mail：info-kfs@kazusanomori.com

ヒメボタルに愛隊（夜の森の観察会）

漆黒の闇にキラキラ光るヒメボタルに会いに、夜の森を歩きます。ヘビトンボやモリアオガエルにも会えるかも。雨天時は室内でのお話になります。

*ヒメボタル（ホタル科）体長 7mm 程の陸棲のホタル。

6月中旬～7月上旬頃、夜中をピークに歯切れ良く明滅する。

*6/1～7/21の間、林道奥谷線は17:00から翌朝9:00まで車両通行止め。

【開催日】6月16日（土）、20（水）、23日（土）、24日（日）

【対象】どなたでも（中学生以下のお子様は保護者同伴）

【参加費】大人 500円・4才～中学生 300円、

4才未満 100円（森の宿「せせらぎ」宿泊の方参加費半額）

【会場】内浦山県民の森（鴨川市）

【連絡先】内浦山県民の森

TEL：04-7095-2821 FAX：04-7095-2822

レンガ造りの窯でパン作りに挑戦！

パン作りに挑戦してみましょう。生地作りから始め、こねた生地をレンガの窯で焼きます。自作の焼き立てパンの味は最高です。

【開催日】6月23日（土）

【対象】どなたでも（小学生以下のお子様は保護者同伴）

【参加費】1,200円

【会場】館山野鳥の森（館山市）

【連絡先】館山野鳥の森

TEL：0470-28-0166 FAX：0470-28-0187

ワイルド釣りキャンプ

魚と一対一の真剣勝負！一本の糸を通して行われる魚とのかけひきは、君の本能を駆り立てる！エサはワイルドに自分で調達だ！大物が釣れたときの喜びは何物にも代えがたい！思い通りにならないからこそ面白い！そんな釣りの魅力を体験しよう！初心者大歓迎！

【開催日】6月30日（土）～7月1日（日）

【対象】小学生

【参加費】CNSクラブ会員 13,000円、一般 16,000円

【会場】千葉県立君津亀山少年自然の家（君津市）

【連絡先】ハロートラベル千葉自然学校予約センター

TEL：043-224-1400

E-mail：cns-camp@aroma.ocn.ne.jp



4月～5月

沖合イルカウォッチング

ときには5,000頭ものイルカの群れに出会うことも…。カマイルカは2～5月に銚子沖で最もよく出会えるイルカです。スジイルカは船首波に乗ったり、ジャンプして水面から飛び出したりと、愛らしく活動的なイルカです。

【開催日】4月～5月

【出航時間】10:30～（1日1便）

GWのみ1日2回運航 8:00～、13:00～

【会場】銚子海洋研究所（銚子市）

【対象】10才以上 定員30名

【参加費】大人 6,500円（高校生以上） 小人 5,000円（10才～中学生）※10歳未満はご乗船できません。

【遭遇できる生き物】

カマイルカ・ハンドウイルカ・スジイルカ など

<お問い合わせ>

【連絡先】有限会社 銚子海洋研究所

TEL：0479-24-8870

<http://www.choshi-iruka-watching.co.jp/index.html>



5月～7月

チャレンジシリーズ

★5月★『森で遊ぼう！はじめてのおとまりキャンプ』

【開催日】5月26日（土）～27日（日）

チャレンジシリーズ第一弾！はじめてのお泊り、はじめての火おこしなどなど、みんなの”はじめて”にチャレンジ★勇気をだしてやってみよう！新しい発見、楽しみがみつかるよ！みんなの頑張りをサポートします。さあ先ずはやってみよう！

★6月★『ゼロから火おこし サバイバルクッキング』

【開催日】6月16日（土）～17日（日）

マッチやライターなど便利な道具を使わないゼロからの火おこしにチャレンジ！火おこしをマスターしたら、おこした火で豪快なイノシシ（ジビエ）BBQ！2日目は、身近な食べられる野草を使ってサバイバルクッキング。遊びながら楽しみながら「生きる知恵と技」を学ぶ2日間です。

★7月★『テントに泊まろう！アウトドアキッズキャンプ』

【開催日】7月14日（土）～15日（日）

初めてでも安心のテント泊体験。森と一枚の布をへだててお友達と寝てみれば、ワクワクときどき…でも不思議と落ち着くような…。全身で自然を感じてみよう。夜は自分で火をおこし、みんなでひとつの明かりを囲んで過ごそう！簡単アウトドアクッキングにもチャレンジするぞ！

<共通>

【対象】幼児（年中～年長）、小学生

【参加費】CNSクラブ会員 13,000円、一般 16,000円

【会場】千葉県立君津亀山少年自然の家（君津市）

【連絡先】ハロートラベル千葉自然学校予約センター

TEL：043-224-1400

E-mail：cns-camp@aroma.ocn.ne.jp

★他にも楽しいイベントもりだくさん！

Webをチェック！ 検索





ろくすけ日和 『ろくすけの庭はごちそうがいっぱい??』

千葉自然学校では、築180年の古民家を管理しています。南房総市平久里という地域にあり、周りは里山。まるで昔話のような場所です。この家には屋号という昔からの愛称があり、皆から親しみを込めて「ろくすけ」と呼ばれています。シニア自然大学やヤックス自然学校のキャンプリーダーの力を借りて少しずつ整備を進めながら、子ども・大人のキャンプで活躍中です。時々テレビにも出ています！

今年の冬は特に寒い日が続きましたね。ろくすけでも池や車のフロントガラスが凍る日が多く、また雪が積もったりと、いつもとは違う景色が見られた冬でした。

そんな長い冬が終わり庭にやっと春の気配がやってきました。春の訪れは気温やウメ・サクラなどの花の開花、虫の往来などで実感しますが、足元の野草も春をお知らせしてくれます。

元々私は野草が好きでよく観察をしていたのですが、最近では「食」として見る楽しみを覚えました。一番に春の訪れを教えてくれたのは「フキノトウ」。少し目を離すとあっという間に大きく育ちますが、あの苦味が冬に溜まった毒素を体から排出してくれるそうです。他には「ハコベ」や「カラスノエンドウ」、変わったところでツクシの栄養葉でもある「スギナ」。どれも出たての少し柔らかい葉を収穫するのがコツです。

野草は栄養価が高く、また味も意外とおいしい物が多いです。中にはアクの強い物もありますが、茹でこぼしなどちょっとした手間ですぐ簡単に食べやすくなります。



一番簡単な調理方法は「天ぷら」です。少し癖のある野草も香りが落ち着き子どもでも食べやすくなります。その他お浸しや炒めものなどもあります。僕はハコベを卵焼きに入れて食べたりしています。食卓に緑が少ない日は庭に出て収穫。そんな暮らしが最近が続いています。

収穫の際一番注意すべき点は、毒草と間違えない事です。事故事例が多いのはニラとスイセンで葉の形が似ています。毒のある野草を覚えることで誤食は防げますが、心配な方は詳しい方と一緒に採集するのがいいですね。

ニュースではまだまだ野菜が高いという話が出ていますので、もう少し庭の野草を「目」だけでなく「舌」でも楽しみたいと思います。

(文：かやぶき屋根の古民家ろくすけ住人 山崎大地／だいすけ)



千葉シニア自然大学

「自然の脅威とは」二期生 田邊明

私はシニア2期生。シニア自然大学の講座終了後、仲間と野外学習や自然観察をするに従い、やっと解った事があります。

いくらやっても木の名前、特徴が覚えられない。花や生物全般然り。そこで自分自身に出した結論は、そうです「自然音痴」でした。この結論を認めてから3年になります。

そして2年程前からろくすけと、大房岬自然公園でのボランティアに参加して活動するようになりました。ろくすけでは何でも屋で、大房岬自然公園では園の方と二人三脚で、剪定、落葉清掃、その他の整備作業を行っています。豊かな自然の中で、森林浴等を行ながら行えるボランティアに各々週1~2回程度参加。館山で单身生活ですが健康に過ごしすぎ、体重増加が悩みの種です。

さて、2年前に2期生から誘われて、南相馬の海岸に植樹ボランティアに行った帰り、皆と別れて一人大川小学校の跡地へ。ずっと慰霊に行きたいと、そして津波に流されていった子どもを何故救えなかったのかを、自分の目で確かめる為。学校回りを見て周り、語り部となった親御さんの話を聞きました。

あれは自然の脅威にすり替えた人災では？裏山に避難させず、児童を「ここにいたら死ぬヨ！」と怒鳴りつけ、50分間も風雪の中、座らせ続けた。崩れた壁に残された「モマケズ、ニモマケズ」の文字。私達は何に「マケタ」のでしょうか？何故多くの子どもが津波にさらわれたのでしょうか。

(文・写真：田邊明)



みんなのおおきな食卓

～遠藤さんの郷土料理のお話～

4月も25日を過ぎると「霜止出苗」（霜やんで苗いずる）季節、そろそろ田植えが始まります。昭和40年代、農業の機械化以前の田植えに比べると1か月から2か月は早くなっています。

当時は、苗づくりの播種は4月下旬から5月にかけて行われました。余った種もみで「焼き米」を作って、播種儀礼として「焼き米」を苗間に撒いて苗の生育を祈りました。また、田植えのおやつにもしました。

今年度、千葉県「ちばの郷土料理」再発見事業を受託して郷土料理を調査したところ、県内各地のそれぞれの特徴を持った「焼き米」が13種類集まりました。もみ殻を取って炒った「煎り米」、煎り米に醤油や砂糖を絡めたもの、煎り米と甘く煮た小豆で炊いた甘いお赤飯のような「やーごめ」、成田市ではこれを「ぼうしゅう」と呼んでいます。房州から伝わったのかしら…と想像します。

そして現在、南房総では「やーごめ」をお盆の仏様をお迎えする料理として供えます。「やーごめ喰い喰いござらっしゃれ」と唱え言葉までついています。

南房総の方に教わった「やーごめ」をご紹介します。

（文：遠藤陽子／サニー）

やーごめ

【材料】

白米…4カップ	砂糖…3カップ
もち米…2カップ	塩…小さじ2弱
小豆…4カップ	水…9カップ（小豆のゆで汁も使う）

【作り方】

- ①白米、もち米はこがさないように弱火で炒る。
- ②小豆は、ゆでておく。
- ③炒った白米、もち米、小豆を炊飯器にいれ、砂糖、塩、水を入れて炊く。
- ④炊き上がったら粘りが出ないようにさっくり混ぜる。



松田料理長のおすすめ～郷土料理～

今まで料理人として何十年と料理をし、色々な地方の郷土料理も作ってきましたが、千葉自然学校に来て提げ重パーティーに参加をし、郷土料理の価値観や考え方が変わりました。

故郷の南房総のさんが焼きやなめろうを作ってみても、鰻だけで作ったものと様々な魚を混ぜて作ったものの違いがはっきりとわかったり、鯨の種類からどの料理に適しているかなど勉強させられました。

他にも千葉の郷土料理の中での食材の違い…例えば、なますでは北の方（山）は酢めした魚を混ぜてあったり、南の方（海）は野菜だけであったりなどの違いは、恐らく昔の流通経路等から生で食べられないから加工して運ばれて食されるのかな、などいろいろと考えられます。

料理は日々進歩しなければならないし、そのためには研究や努力を怠らないのは当然のことです。郷土料理を作ってみると、自分がどれほど故郷が好きで愛着があるのかを考えさせられます。郷土料理を如何に子どもたちに伝えていくか考え、これからも伝えて行きたいと思います。（文：松田光央）



●団体会員（34団体）

NPO 法人大山千枚田保存会、岩井民宿組合、ヤックス自然学校、(株)ちば南房総、千倉オレンジセンター、NPO 法人たてやま・海辺の鑑定団、「わたしの田舎」谷当工房、NPO 法人佐倉みどりネット、森林塾かずさの森、(一財)千葉県観光公社、上総自然学校、NPO 法人安房文化遺産フォーラム、(株)かずさアカデミアパーク、食と農の体験工房「よもぎ館」、千倉民宿組合、ぬく森くらぶ、自然の宿「くすの木」、リゾートイン白浜、Live Stock(ライブストック)、さんむアクションミュージアム、市津・ちはら台自然楽校、NPO 法人里山会(勝浦エンゼルアドベンチャーランド)、千葉伝統郷土料理研究会、ひらつか地域活性化協議会、ピーちゃんクラブ、NPO 法人ちば里山センター、ELFIN 体験共育くらぶ、NPO 法人千葉・草原のこころファーム、(一社)森のようちえんはっぴー、環南みんなの楽校、(一財)千葉県環境財団、(有)銚子海洋研究所、東京クラシックラブ、ワイズスノー&アウトドアスクール

●賛助会員（6団体）

館山日東バス株式会社、(財)ちば国際コンベンションビューロー、株式会社富楽里とみやま、株式会社HMC 東京 旅行事業部、スコープジャパン株式会社、林造園土木株式会社

指定管理施設

現在、県内にある3ヶ所の施設を指定管理者として管理・運営しています。

- ・南房総市大房岬自然の家(千葉県の施設として平成17年9月～平成20年3月)
(南房総市の施設として平成20年4月～)
- ・千葉県立大房岬自然公園(平成18年4月～)
- ・千葉県立君津亀山少年自然の家(平成20年4月～)



千葉県立大房岬自然公園



南房総市大房岬自然の家



千葉県立君津亀山少年自然の家

運営施設

- ・かやぶき屋根の古民家「ろくすけ」(平成16年5月～)
- ・千葉県立中央博物館ミュージアムショップ(平成26年4月～)

千葉自然学校のミッション

体験活動を通じ

- ・だれもが人生を豊かに生き、支え合う力を育む
- ・地域の資源を保全・活用し、次代に引き継ぐ
- ・ネットワークを充実し、地域の活性化をめざす



千葉県内における自然体験活動団体をつなぐネットワーク型の自然学校として、平成15年より活動を行っています。自然体験を通して、千葉県の里山・里海の保全と地域の活性化を目指しています。

また、ネットワーク会員との連携を強化し、県内全域で幅広い世代を対象とした自然体験活動を実施しています。

スタッフのつぶやき

■平昌オリンピックが終わり、メダル獲得数がこれまで最高の13個となりましたが、どの日本選手も、まず周囲の人への感謝を言い、実に爽やかな気分になりました。特に、前回のオリンピックから嵌まっている女子のカーリングについては、毎回テレビにくぎづけになって応援していました。銅メダルを掛けてのイギリス戦のプレイは、何とも言えない緊張感に包まれましたが、緊迫した中でプレイする両国の選手たちの強靱な心と身体に心から拍手をおくります。今回は、少し日本に運があった結果かなと思います。(オーシャン)

■庭の夏みかんが13個たわわな実をつけました。収穫時期はよくわからないけれど重そうなので収穫しました。酸っぱいけれどフレッシュです。(サニー)

■花粉症 いつまでたっても 花粉症。(ボクサー)

■税金で土地改良しても後継者が居なくて放棄地になって荒れていく野山ってなんだろう。(ぺったん)

■時間の流れが速いです。流されないようにやりたいこと実現していこう！(たこはち)

■新年度のイメージは、桜。四季折々の花があるお蔭様で、より一層季節毎の想い出が記憶に残ります。(けろっぴ)

■「虫眼とアニ眼」の中で描かれている宮崎駿さんの子どものための世界観に惹き込まれた。(かつを)

■季節の移ろいに、心も変化していきますね。春のフレッシュな気持ちで再スタート！(のりべん)

■平成30年度がスタート。変化が増えて経験値がたままる年になりそうです。(らうす)

■止まらないくしゃみが春の便り。春の花をじっくり香れる日をいつも願っています。(さぼてん)

《編集後記》

新しい畑開拓。無事野菜が育つかどうか、土と草と相談しながら頑張ります！(かみい)

認定NPO法人を目指して～ご寄付お願い～

寄付金額が3,000円以上である寄付者様を募集しています。当法人の活動にご理解、ご支援いただける方はぜひご支援ください。

▼振込先(郵便局)▼

【郵便振替口座番号】00170-5-259431

【加入者名】特定非営利活動法人 千葉自然学校

▼振込先(銀行)▼

千葉銀行 千葉駅前支店 普通 3740275

特定非営利活動法人 千葉自然学校

【寄付金額】3,000円より

※領収書を発行いたしますので、お名前、ご住所、ご連絡先を必ずご記入ください。

発行： **NPO法人 千葉自然学校**

千葉自然学校ニュースレター(年4回発行)

■千葉事務所 〒260-0015 千葉市中央区富士見 2-3-1 塚本大千葉ビル 7 階

電話：043-227-7103/FAX：043-202-7237

ホームページ：http://www.chiba-ns.net メールアドレス：info@chiba-ns.net

